



検査課から

▶ 検査課バックナンバー

■ ～妊婦さんは高脂血症(脂質異常症)?～

妊婦さんは高脂血症(脂質異常症)?



妊娠中に、特に中期以降に職場などで脂質の検査をされた方は、ご自分の検査結果を見てたいへんおどろかれます。なぜなら、健常成人の基準値から大きく外れてしまった総コレステロール値や中性脂肪値をみて、「血液ドロドロ」と思われるからです。

—ではなぜ脂質が多くなるの?—

妊娠中、妊婦さんは胎児を育てたり胎盤を作ったりするための脂質合成が盛んになり、妊娠初期には食後インスリンの分泌が多くなり、摂取した食物をどんどん脂肪にかえ、妊娠期間を通じて約3kgの脂肪組織の増加がみられるそうです。一方で妊娠中期以降ではインスリンの作用を抑えるホルモンが胎盤から分泌されて高血糖になりやすい状態になります。また妊婦さんのコレステロールやリン脂質は、ほとんど胎盤を通過せず、胎盤でのホルモンなどの合成に用いられます。胎盤で産生されるホルモンは脂肪組織から脂肪を取り出しリポ蛋白を分解する酵素の活性を抑えます、この過程で正常な妊婦さんでも高コレステロール血症をきたすため、総コレステロール値が280mg/dl前後、中性脂肪値が220mg/dl前後に上昇するのだそうです。しかしもとも脂質異常症(高脂血症)の場合や、妊娠高血圧症(妊娠中毒症)、耐糖能異常(糖尿病)がある場合にはこれらの脂質の血液中濃度が、さらに高くなる場合が多いのですが、治療といってもお薬を使うわけではなく、食事療法が中心となるようです。特に注意が必要なのは、中性脂肪が400mg/dlを超え1000mg/dl以上になるような場合は急性膵炎などの危険があるそうです。



通常分娩後は、コレステロール値・中性脂肪とも徐々に低下しもとにもどります。体内のコレステロールはじつに7割近くが肝臓で作られています、食事からとるコレステロールは動物性脂肪からのものだけです。妊娠中はバランスの良い食事をとり、とくに動物性脂肪のとりすぎには注意が必要なわけです。

妊婦さんの基準値は特にありませんので、健常成人の基準値として以下を参考にしてください。

日本動脈硬化学会の「動脈硬化性疾患予防ガイドライン」では、これまで“高脂血症”と呼んでいたものを“脂質異常症”という呼び方に改定されました。これは、いわゆる悪玉(LDL)コレステロールが増えることも危険なのですが、善玉(HDL)コレステロールが減ってしまうことも危険であることからこのように改定されました。

健常成人の基準値：
 総コレステロール 220mg/dl未満
 HDLコレステロール 40mg/dl以上
 LDLコレステロール 140mg/dl未満
 中性脂肪(トリグリセリド: TG) 150mg/dl未満



脂質の検査は、10時間以上の空腹時採血で検査し評価します
 (特に中性脂肪は食事の影響を受けやすいためです。)

— 日本動脈硬化学会ガイドラインより—

担当: 病理検査係長 清水 由紀子